

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (四日市工業高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成し、地域にとって必要で愛着をもってもらえる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学び、専門的な知識と技術・技能の修得に努める生徒 ○ スポーツ・文化活動等を通じて、個性を伸ばし、心豊かな人間性を備えた生徒 ○ 規範意識を持ち社会に貢献できる生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像実現に向け、保護者・企業・地域等からの要望を受け止め、互いに情報共有を図り、すべての教職員が一体となった教育活動を進めるとともに、意欲を持って教育活動のできる教職員集団 ○ 仕事にやりがいを感じ、自らも成長しようとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 進路調査では生徒の約8割が就職、約2割が進学を望んでいる。進路実現のために資格取得、部活動等における飛躍、充実した学校生活を期待している。</p> <p><保護者> 子どもたちの進路実現と部活動等の集団生活をとおした人間的成長を求めている。</p> <p><企業等> 元気で明るくコミュニケーションが図れ、社会に貢献できる生徒が育成されることを期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 連携・協力のために、学校の取組等を今以上に情報発信してほしい。</p> <p><中学校・小学校等> オープンスクール等により、学校生活の様子、部活動の様子、入学者選抜の情報等を知らせてほしい。</p> <p><企業・地域等> 心身ともに健康な人材が輩出されることを期待している。 地域活性化につながる行事等への参画してほしい。</p>	<p><家庭・保護者> 本校教育方針を理解と協力、特に社会的役割と責任の自覚を促す指導への相互協力をしてほしい。</p> <p><中学校・小学校等> 継続的・効果的な指導のために個々の生徒の情報共有をしたい。</p> <p><企業等> インターンシップ等についての連携と協力、専門科目等における技術指導への支援をしてほしい。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業までの3年間を見通したキャリア教育の体制が確立している。 ・ 人権教育については、有意義であった。次年度に向けて教材研究や講師の選定など、引き続き検討を深める必要がある。 ・ 地元小学校生へのものづくり体験教室は、工業教育の魅力を発信する絶好の機会として意義があり、継続・発展を期待する。また、このような活動が生徒の専門性を深め、コミュニケーション力を高めることにつながっている。 ・ 災害時には高校生の協力が求められることから、災害を想定した地域との事前調整等が必要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>生徒たちは将来のスペシャリストを目指し、専門教科等の学習に努力している。さらに、部活動等でも努力し、優秀な成績を収めている。生徒の自己実現のために、教職員が「学びの精神」を忘れず、学習指導と生活指導の工夫と改善等に努力することが必要である。</p> <p>生徒理解、支援体制を充実させ、生徒一人ひとりに応じた進路指導の充実が求められている。</p> <p>企業が必要とする技術力が多様であり、本校工業教育の到達目標が定まらない。</p>	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員数、職員室の数も多いが、分掌、工業各科、学年間の連携がスムーズになり、教職員間で情報が共有されているため、組織として学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。 ・ 就職希望者の内定率100%を維持している。 ・ 放課後や休日等の指導もあり、資格取得、ものづくり活動、部活動等において大きな成果を収めている。 ・ 7学科を設置していることから学科間で学習指導にばらつきがでる。 ・ 各種委員会等の会議が多くなり、教員が生徒と関わる時間を確保が必要である。
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成するため、資格取得やインターンシップの一層の充実を図るとともに職業人として必要な力（生きる力）を身に付けさせるための活動を継続的・体系的に実践する。 ・ 経済、産業、文化等、さまざまな面でグローバル化が進展する中、価値観の異なる多様な人々と協働していく力の育成や、海外での仕事に対する関心や理解を高めるために、海外インターンシップや外国での勤務経験がある職業人の講話などの取組を行う。 ・ 生徒や保護者が四日市工業高校に「入学して良かった」と感じ、生徒が自己実現を図ることができるよう、全職員が連携した指導体制及び支援体制を強化する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携を密にし、学校との信頼関係を構築する。地域の行事への参加、地域の小中学校への出前授業、学校説明会等を10回以上行う。 ・ 企業訪問により企業等の連携強化を図る。（企業訪問 100社以上） ・ 人権教育基本方針をもとに、人権感覚あふれる学校づくりを推進する。 ・ 生徒会活動や部活動など自主的な活動を一層充実させ、心豊かな人間性と個性の伸長を図る。 ・ 部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定（1日/週）する。 ・ 会議の精選と効率化により会議時間を減少する。また、業務内容を精査し時間外労働の縮減に取り組む。さらに、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場」をつくるために定時退校日を設ける。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実と資格 取得	(1) 生徒に「生きる力」をつける環境づくりのため、授業変更や特別時間割の工夫により、自習課題時間を前年度より減らし授業時間の確保に努める。 (2) 学習成果の指標として学科毎に特色のある資格試験や検定試験、競技会に取り組む。 【成果指標】 (物質工学科) 1年生での危険物取扱者乙4類全員合格。 3年間で危険物取扱者全類合格者80%以上 (機械科) 技能検定（旋盤、フライス盤、機械組立仕上げ）の合格率100% 1年生での危険物取扱者乙4類合格90%以上 (電子機械科) 各種資格取得に取り組み、合格率を前年より上げる。 第二種電気工事試験、技能検定（マシニングセンタ、シーケンサ）、ITパスポート、情報技術検定、製図	(1) 授業変更等を工夫し、自習課題は、前年度比で微減となった。 (2) (物質工学科) 危険物取扱者乙種第4類合格率は60%。 3年間での合格者119人。49% (機械科) 技能検定合格率100% 乙4類合格83% (電子機械科) 第二種電気工事士合格率66.7% ガス溶接技能講習2年生全員修了 技能士2級マシニングセンタ受験者6	

	<p>検定、・ガス溶接技能講習、危険物取扱者試験 (電子工学科) 資格・検定取得者数のべ120人以上</p> <p>(電気科) 1年生希望者で4級品質管理検定合格率60%以上 2年生全員受験で第二種電気工事士合格率70%以上</p> <p>(建築科) 2級建築施工管理技士(学科試験)の合格率で全国平均以上 建築CAD検定3級の合格率で全国平均以上 情報技術検定3級合格率100% 計算技術検定3級合格率100% 技能検定3級(建築大工)合格率100% 3・4級建設業経理事務士の合格率100% 各種全国高等学校建築設計競技での上位入賞 ものづくり大会東海大会への出場と入賞</p> <p>(自動車科) 計算技術検定の合格率100% 情報技術検定試験の合格率100% ガス溶接技能講習修了証の取得率100% 自動車整備士試験の合格率100%</p>	<p>人全員合格 (電子工学科) 資格取得・検定合格者数115名 (電気科) 4級品質管理検定合格率90% 第二種電気工事士合格率57.9% (建築科) 2級建築施工管理技士目標達成 建築CAD検定3級の合格率88.6% 情報技術検定3級合格率95% 技能検定3級(建築大工)合格率82% 建設業経理事務士3級8名全員合格 4級33/34名が合格 建築設計競技等へのべ10名参加し、最優秀賞1名はじめ上位入賞7名となった。 ものづくりコンテスト 全国大会出場。 (自動車科) 計算技術検定の合格率は100%。 情報技術検定の合格率は92.5% ガス溶接技能講習の合格率は100% 3級自動車整備士の合格率は86.8%。</p>	
<p>キャリア教育 の充実</p>	<p>(1) 実習等での1分間スピーチなど、生徒の言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力や心豊かな人間性と個々の伸長を図る。</p> <p>(2) インターンシップの成果発表会を行い、全ての生徒が働く意義と仕事をする事の重要性を認識できるよう取り組む。(指標:2年次においてインターンシップ参加生徒の率65%以上)</p> <p>(3) 進路実現のために以下の取組を行う ・進路講話、卒業生との懇談会の実施 ・学年通信の発行(指標:3学年で10回以上) ・ミスマッチや早期離職をなくすため、応募前企業見学の実施(指標:3年生の就職希望者の就職内定率及び進学希望者の合格率100%)</p> <p>(4) 生涯にわたって学ぶ資質を養うために図書館の利用促進を図る。 ・年間貸出冊数6000冊</p>	<p>(1)1分間スピーチ等により全学年で、コミュニケーション能力の向上に取り組んだ。 (2)インターンシップの発表会を公開授業により実施。また海外研修旅行の発表も実施した。 インターンシップの参加率は75%。</p> <p>(3)進路講話(4月)、卒業生との懇談会(6月)に実施できた。 3学年では学年通信を年度末までに16号を発行した。 応募前企業見学の実施等により進路決定100%達成(就職希望者242名) (4)貸出冊数6,248冊 ・図書館便り11回発行</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便りを月1回発行、ホームページを年間3回更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ（新着図書情報のみ）9回更新
人権教育	<p>人権感覚あふれる学校づくりを目指して以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権LHRを1学期と2学期に全学年で実施 ・権問題について自ら考え、判断し、行動できるように「LGBT」をテーマに、話し合いを中心としたLHRの実施 ・1年生を対象としたSNSに関する講演会の実施 ・修学旅行先の沖縄について取り上げた平和学習の実施（指標：いじめアンケートを年3回実施、人権だよりを年3回以上発行） 	<p>人権教育を諸テーマごとに設定し、学年団と人推委員が委員会等で検討しながら取り組むことができた。</p> <p>左記の取組内容について全て実施し、特にLGBTsの人たちが抱えている問題などに気づくことができた。</p>
生徒指導	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立について取り組む。また、社会で必要な礼儀に加えコミュニケーション力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣の確立、遅刻のない学校生活を送る事ができるよう取り組む。（指標：遅刻件数年間250件以下） ・来客者や教員に対するあいさつ・礼儀作法を身につけ、社会で生きていくために必要な力を養う。 <p>(2) 交通事故防止に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学の安全とマナー向上、交通ルールの順守を図るため、登校指導・講話の実施 ・自転車点検を年間2回実施 	<p>(1)生徒指導については計画通り分掌として取り組むことができた。</p> <p>遅刻について昨年より「寝坊」が理由の生徒が減少しており、指導の成果が見られる。（平成30年度遅刻件数242件）</p> <p>あいさつ指導は「年々声が小さい」、「自発的でない」という意見があり常に啓発する必要がある。</p> <p>(2)交通事故防止の取り組みについては計画通りできた。特に自転車通学のマナーについては、生徒を啓発活動に参加させるなど当事者意識を喚起させることができた。</p>
保健管理	<p>生徒自身が健康への関心を高め、健康について考える機会を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力と歯についての指導を重点課題ととらえ保健指導を行う。 ・生徒保健委員会による保健だよりを年5回以上発行 ・保健便り「すこやか四工」を月1回発行 ・「性に関する講話」「メンタルヘルスに関する講話」を各年1回実施 	<p>視力については重点保健指導課題として取り組み、3年生には適正な矯正視力とする指導を強化した。歯科では文化祭で展示企画、体験企画を計画して取り組んだ。保健便りに加えて生徒保健委員会便り10枚、学校保健委員会だより1枚を発行して情報発信した。</p> <p>2つの講話に加え「心の病気と自殺防止に関する講話」を実施し、心の病気・自殺防止について学ぶ機会を設定した。</p>

【学習指導】

教員の出張等による自習時間については前年より改善されましたが、授業時間確保のためには、学校行事の見直しを行う必要がある。

○資格取得について

危険物取扱者乙種第4類については合格率100%にむけて生徒の意欲を引き出すため、他県受験等も視野に入れる必要がある、また、他類の受験者を増やすとともに取得率の向上にも取り組む雰囲気醸成させる必要がある。

さらに工事担任者や上位級の技能士など難易度の高い資格取得にチャレンジさせる必要がある。

○インターンシップについて

インターンシップについては研修場所の職種を広げること等により進路選択の幅を広げることで生徒が進路決定の参考にできるようにする。そのために複数回の実施ができるよう部活動を引退した3年生や運動部を退部した生徒などにも声をかける、土曜日の研修などを取り入れる等の方法を検討していきます。

【進路指導】

求人数が前年より増加する中、選択肢が増えることで自分に適した企業選びが難しくなる生徒がいる。そのような生徒の中には、学校関係者や保護者の意見により進路決定する者もいるので、自分の適性を踏まえた進路選択をさせることが課題である。

12月実施の1・2年生を対象とした進路ガイダンスでは、生徒の職業感や進路意識の向上を高めるために実施している。しかし、内容が多岐にわたり、集中力が続かなか聞く姿勢が怠慢になってしまう生徒がいることが課題となる。今後、内容を精査するか、新たな取り組みに変更するか検討する必要がある。

【生徒指導】

○あいさつについて

本校の基本理念を一番具現化したものである。入室時や来客者に対しては言葉を伝えることができるが、それ以外の日常生活の場面でも大きな声で、はっきりできるように、さらなる取り組みが必要である。

○通学マナーについて

今年度も地域から通学マナーに対するご意見をいただいた。また自転車での事故も減少していない状況である。生徒に日ごろの指導を自分事として考えられる方策を考えていく必要がある。

○携帯電話、スマートフォンの適切な使用について

学校内での不必要な使用、登下校時の使用など、指導すべき状況は増加している。またSNSでのトラブルも多い。今後も重点的に取り組む必要がある。

【保健管理】

学校保健委員会は形骸化しないよう、全体会以外に関係者のみで行うグループワーキングや地域学校保健委員会の開催するなどについて検討する必要がある。また、情報共有にとどまらない活発な意見が行き交う委員会を目指すためにも、会議の回数や開催形態を見直す必要がある。

性に関する指導では、今年度初めて2年連続して同じ講師に講演を依頼した。継続する事で見える事、他の講師にする事で見える事の両面を検討し、次年度の講師選定を行う必要がある。

教育相談専門員の活用については、今後も定時制と協議を行いながら検討する必要がある。また、発達障がい支援員の指導等が継続活用できるよう、年間で計画する必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>(1) 総務部会を開催し、分掌業務の進捗状況を把握し、部員全員で協力して円滑に職務を遂行できるよう取り組む。(総務部会5回以上)</p> <p>(2) 防災への意識を高めるとともに万一の事態に備える。 ・巨大地震が発生し津波避難を想定した防災訓練の実施 ・緊急連絡のシステムを整備</p> <p>(3) 地域・保護者との連携強化 ・役員会を5回以上実施 ・各研修会への参加及び、PTA会報(年1回発行)等による還元 ・学校関係者評価の開催</p> <p>(4) 人権教育を計画的、継続的に推進する。 ・人権教育推進委員会の開催(年間11回)</p> <p>(5) 特別支援教育の推進 ・委員会を年5回以上開催</p> <p>(6) 学校医との連携・情報交換を密にする。 ・学期に一回「学校保健委員会」の開催</p> <p>(7) 「働きやすい職場づくり」を目指す。 ・部活動において、生徒・部活動顧問ともに休養日を設定する。(1日/週) ・定時退校日を設置し退校を促す。(1日/月) ・1か月の平均時間外労働時間を20時間以内、年間休暇取得日数の前年比1日増を目指す。 ・時間外労働時間が月80時間を超える職員の数や延べ数で年30人以下となるよう取り組む。 ・会議の進め方を見直し、会議時間を1時間以内とする。(全会議の95%以上)</p>	<p>(1) 総務部所管の行事前、および朝の打合せ後に部会を開き、円滑な業務運営に努めた。</p> <p>(2) 台風による順延となったものの防災訓練を実施することができた。</p> <p>(3) 役員会、研修を計画通り実施した。会報を発行して会員に還元していく予定。</p> <p>(4) 委員会計画通り開催した。</p> <p>(5) 年5回の委員会を行い、学校での配慮や支援の方法を検討、実施した。</p> <p>(6) 計画通り3回実施。第2回には生徒保健委員会の代表が参加し、本校の健康課題について報告等を行った。</p> <p>・部活動における休養日を設定できた。</p> <p>・定時退校日を設置したが、退校を促すことについては月によりむらがあった</p> <p>・年間休暇取得日数は0.3日の増。</p> <p>・時間外労働時間が月平均80時間を超える職員が30人、月100時間を超えた職員の数や延べ数は38人と増加した。</p> <p>・すべての会議において会議時間が1時間以内を達成できた。</p>	

改善課題

個人の負担軽減を考え、組織的な業務の運営を検討します。更に対話を深め、学校の教育課題を議論しながら学校教育目標の達成に向け活動していきます。

働きやすい環境づくりについては月80時間を超える職員が増加しており、職員一人ひとりにきめ細やかな助言・指導を行う必要があります。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>最先端の技術を教えるのも大切であるが、技術の基礎・基本の確実な定着を図ることも重要である。</p> <p>四日市工業の生徒は校外でも挨拶をしてくれ、さわやかに感じるが、若者のコミュニケーション能力が低くなりつつあるような社会的変化を感じる。コミュニケーション能力を更に育む教育が重要である。</p> <p>専攻科は定員割れをしているので、生徒募集のために広報活動等において学習内容等のさらなる周知が必要である。</p>
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>学習活動と部活動との両立を図るために、資格試験の日程や、クラブの大会の日程を教職員間で共有し、生徒が計画的・継続的に学習を行うことができるような環境作りをいっそう進めます。</p> <p>基礎学力向上のために興味を持たせるような授業を継続して行っていくとともに、インターシップの事前指導や事後指導などの工夫により、学習意欲向上のための動機付けを行います。</p> <p>基礎学力テストを取り入れるなど、県内での本校工業科の位置付けを把握します。</p>
学校運営についての改善策	<p>会議の精選を一層進め、デスクネット等の媒体を活用し、会議の回数を減らすようにします。</p> <p>教職員の健康管理及び過重労働削減に努め、報告書類の内容の見直し等による事務処理の軽減などの業務内容を見直すとともに、長時間労働が及ぼす健康障害等を職員に周知し、「働きやすい職場づくり」を目指します。そのために引き続き以下の取り組みを継続します。</p> <ul style="list-style-type: none">・部活動休養日の見える化に取り組みます。・職員の休暇取得の対前年比増を目指します。・月に一日の定時退校日は職員どおして帰宅を促すよう取り組みます。